

第4回伊予市図書館・文化ホール等管理運営アドバイザー会議 会議概要（無記名版）

日 時：平成 30 年 11 月 29 日（木） 10 時 00 分～12 時 00 分

場 所：伊予市役所 2 階 第 1 会議室

出席者：委員長、副委員長、委員 3 名

事務局：5 名

委託業者：2 名

資料：資料① 第 4 回伊予市図書館・文化ホール等管理運営アドバイザー会議議事次第

資料② 事業企画概要書

資料③ 伊予市文化交流センター（平成 30 年度）広報計画

資料④ 第 3 回企画運営講座まとめ

1. 開会

- ・ 委員長挨拶（委員長）

2. 議事

（1）現在の取り組みについて（報告）

○愛称決定「IYO 夢みらい館」

- ・ 9 月、市内小中学生合同での投票により、愛称が「IYO 夢みらい館」に決定した。10 月 1 日に伊予市のホームページで公表して、この愛称の周知啓発に取り組んでいるところである。伊予市文化交流センターというよりも、IYO 夢みらい館という愛称を定着できるように努力する。（事務局）

○工事現場見学会

- ・ 11 月 4 日（日）、日曜日に 10 時、13 時、15 時の 3 回に分けて実施した。本日は議員の方にもご覧になっていただいた。申し込み参加人数は 54 人だったが、延べ人数だと 80 名くらい。想像しながら舞台も見ていただいたので、距離感が近いなどといった感想を述べられていた。有意義な会になったと思う。（事務局）

○学校アウトリーチ活動、文化祭時 PR

- ・ 11 月 3 日（祝）に伊予中学校に行かせていただいた。文化祭の一コマの中でこちらも扶桑太鼓さんをお願いして、生徒さんに PR をお任せした。その後扶桑太鼓さんが迫力のある太鼓演奏をしてくれた。
 - ・ 11 月末に行われた伊予市の市民文化祭で、PR をさせていただいた。また、市内 13 校、伊予市から少し離れた地域の小中学校に対して図書利用者カード作成のご案内をさせていただいた。100 人程度の申し込みを想定していたが、大幅に予想を超えて 440 名程申し込みをしていただいた。11 月頃に発送予定だったが、少し処理が遅れて 12 月頃の発送予定になっている。（事務局）

○伊予文化交流センター条例施行規則

- ・ 11 月の教育委員会にて、条例に則した規則を制定した。概ねの内容としては、受付期間や使用料の減免還付に関してである。この決定をもって、以前、案としてご提示した利用案内を準備作成していきたいと思っている。まだ備品の購入ができていないが、備品を購入次第、備品使用料を提示した規則も制定し、案内として提示したいと思っている。ピアノは、スタインウェイのピアノを購入予定で

進めている。(事務局)

- ・ 工事現場を見せていただいたが、目の前の郵便局の移転の話はその後どうなったのか。(委員2)
- 郵便局の移転について、これに関して事務局でできることはあるか。(委員長)
- 郵便局の移転も含めて隣接する交差点、踏切という問題もある。踏切は来年度末にはできる見込みだが、交差点はまだ見込みが立たない。また、郵便局も立ち退きの検討があったという状況。できる限り早く働きかけできたらと考えている。(事務局)
- おそらくそれ以上公式に言えることがないだろう。総意として、施設のメイン口を公道から見て塞ぐ形に立地する郵便局は移転した方が望ましいということは、検討委員会の時から申し上げてきたので、当アドバイザー会議においてもそのような意見だったということを改めて伝えて欲しい。(委員長)
- 今の所工事は順調なのか。(委員長)
- 担当課としては、多分大丈夫だろうと考えている。構造的に工事が難しいらしい。(事務局)
- これ以上工事が遅れると、引っ越しが遅れて、図書館を壊すのが遅れて、駐車場関連が遅れるという風にどんどん遅れてしまう。条例の施行期日も8月1日と決めた。工事が仮に遅れたとしても条例の施行日が8月1日ということになってしまったので、それに向けて何としても完成をさせて頂きたいと思う。(事務局)

(2)平成31年度事業計画について(事業企画概要書) 資料②

- ・ 2019年の8月にオープンしてから2020年4月までの期間は、お試し事業も含めて全て伊予市の主催事業として行われる。お試し事業の期間も申し込みがあってからということになるので、それまでの事業、伊予市主催の事業に関して、今上がっている企画である。(委員長)
- 資料2をご覧いただけたらと思う。プレ事業かつ駐車場が未完成のため、8月から3月の期間は大きな事業は行わないという方針の元、計画を出している。(事務局)
- ・ *配布資料②に基づき、事業企画概要書の説明。* 資料②
- ・ 我々がなにかやる時に必ず予算確保を考える。IYO夢みらい館は、潤沢な予算が付くような方向になっているのか。(委員3)
- 逆に、かなり予算が抑えられている。その分は補助金を活用し、先ほど言ったように今年度に関しては小さな形で進めて、4月以降に予算を確保したいと思っている。(事務局)
- 将来的には独立採算制度とかそういう方向にいくのか。(委員2)
- 独立採算ではない。将来的には指定管理者制度、開館当初は直営となるが、舞台技術のみ委託はするかもしれない。(委員長)
- 例えば、6千万円の指定管理料を払う。その内の1500万円は、こういった事業に使うという契約を結ぶ。事業費も含めた委託料をお支払いするという形になる。(事務局)
- ・ 駐車場について、学校に50から70台は停められると思う。現場見学でも生徒と一緒に歩いてきたら、苦になるほどの距離でもないと思ったので、学校行事が重ならない限り協力できる。(委員3)
- とてもありがたい。(事務局)
- 伊予市民が来るのだったら場所が分かるが、逆にピアノ開きで松山の方が結構来られると、それはそれで誘導が大変だと思う。(委員長)

- イベントの際に駐車場を開放していただけることは、とてもありがたい。現図書館では、今は少しずつ利用者也増えている状況だが、あくまで 6 割 7 割は、車を使わないような方、郡中地区の方というような統計になっているので、広域から人を呼ぶとなると、駐車場に関してはなんとかしないといけない。(事務局)
- 一番心配しているのは、近隣の駐車場を持っている店舗等とのトラブル。やはり利用者からすると近隣の無料の駐車場に停めてしまうので、十分に地域との交流をと思う。(委員長)
- ・ 後から広報計画にも絡んでくるが、カレンダーを見ていると 11 月まではお試し事業はないので、うちの学校の創立記念行事を 10 月や 11 月に入れてもらおうと思ってもそれは無理なことか。(委員 4)
- 日程が合えば可能。(事務局)
- たとえば、文化ホールでステージなんかを使わせていただくが、10 月に文化祭準備リハーサルというのが最終週にある。ここに舞台設備学習会とあるが、これを終了しないとステージが使えないということではないのか。(委員 4)
- そうではない。創立記念行事の時期はいつか。(事務局)
- 第一希望は 10 月 26 か 27 日。これは毎年双海フェスタというのを開いている日なので、ここに市民文化祭の準備があるが、どちらか一日だけでも入れさせていただいたらこれはベスト。第二候補がピアノ試奏会の 19 日。(委員 4)
- 個別に相談させて頂きたい。あくまで、計画段階のため、日程の調整は今のところは可能。(事務局)
- 赤の文字は決定。他はイメージとなっている。(事務局)
- 12 月からになると、どうしても中学生も受験が入って来る。従って、10 月の終わりにせめて 11 月の中旬くらいまでには終わらせてあげないといけないと思う。(委員 4)
- ・ 来年の 8 月 1 日から翌年の 3 月 31 日までに行う事業は、全てお試し事業ということになる。32 年 4 月の本格的な供用開始に向けて、準備作業として様々なことを市が試してみても施設のチェックなどを行い、事業運営をどうやっていくかというような訓練をするために行う。どんな事業をやるかということを、教育委員会が計画する。様々な団体が提案する事業に関して、許可を出すかどうかには、きちんとした理由がある。理由を明確にしておかないと、他の団体から文句が出る可能性がある。線引きが難しいが、学校関係であれば理由は立つので、おそらく良いと思う。(事務局)
- もちろん情報は共有しなければいけないと思うが、市の直営でスタートするので、市の方とご協力いただく。お試しなので多少運営上の不具合や行き届かない点は、翌年の 4 月以降よりはあるかもしれないということか。(徳永委員)
- その通り。加えて、スタッフが足りていない。従って、事業をたくさんやるということは非常に苦しい。結局来年になっても、文化交流センターの職員が増えそうにないという状況の中でやっていかなければいけない。(事務局)
- まずは日程をご相談し、詳しい部分は情報共有をさせていただきながら、舞台の専門職はスポット的にせよ、常勤にせよ、来年度からになる。舞台技術の方が入ったらまた改めてご相談させていただく。(事務局)
- ・ たとえば避難訓練や、見学ツアーなどは、保険をかけなくて大丈夫か。(委員長)
- 全国公立文化施設協会の保険に加入する予定。(事務局)
- ・ 小学校、中学校、高校生は、たとえば授業の合間に図書館見学ツアーを入れてもらったりして、将来

の利用者にとって安易に行きやすいイメージになればと思う。(委員長)

- 平日昼間に子どもたちがいないのは当たり前だが、図書館の高齢化が進んでおり、ぜひ若い人たちに新しい視点で図書館を利用していただく方が良いと思う。(事務局)
- アウトリーチや新施設の見学に力を入れたい。中高生は非常に忙しく、読書離れが進んでいる。それから、やはり読みたい本が図書館に置いてないということがあるので、そういうところも検討する。できれば今後中高生たちが本を選ぶ機会もあったら良いと思う。(事務局)
- ・ 8月1日落成式を行うのか。(委員5)
- 8月1日は供用開始。一般のお客さんがどんどん入ってくるので、小さい内に落成式とか竣工式をすることはない。建物の中って、備品が入って、使えるようになった時点で、関係者だけの落成式を開館前にやるということになるので、8月1日に仮にやるとすれば、テープカットするくらいだと考えている。(事務局)
- ・ 舞台技術員について、機器や設備のイレギュラー対応はもちろんだが、実際には、機器などを管理することは絶対必要だと思う。やはり、常駐者がいない管理がきちんとできないし、まず、習熟ができない。建物を良く理解し、設備も分かっているという人が、確かに高く付くというのもあるのだろうし、そこに専門の方は入るのか。(委員1)
- おっしゃる通りのことだと思っている。共用開始は、8月からと言ったが、その前段の準備がされているのか、その点が非常に大変でかつ大切になるのではないかと考えている。従って、準備設定から始まって、それをいうと4月から、もしくは5月からずっといていただいて、日々の点検とか、その点検業務だけではなくて、お試事業とかそういう相談窓口になっていただくようにしたい。(事務局)
- おそらくお試事業の方は素人の方が多いと思うので、絶対必要だと思う。(委員1)
- 全国で舞台技術監督をされてきた方が言っておられたのが、各自治体大変だろうけど、最低でも一人は絶対必要だと、それは言わば、マンションだと管理人のような存在だとおっしゃった。施設の不調を取りあえず把握していて、その度毎に予算の関係で修繕できなくても、それを工夫して乗り切る人がいないと、突然不具合が起きた時にみんながパニックになるだけで安全管理もできないと。(委員長)
- 考え方としては、いわゆる新しい施設であるから、愛着を持って対応していただくスタッフが一番大事だと思う。委員長さんが言われていたような微々細々のトラブルも蓄積していけば、それがテクニックになるのだろうと思う。(事務局)
- 担当課としては万全の態勢でいきたいということで予算要求をするのであるが、それがなかなか難しいのが現状である。(事務局)
- やはり必要なスタッフの一人、本来は専門の職員がついてやらないといけない。委員長のおっしゃったように愛着を持ってという部分と、地域の皆さんから相談窓口で信頼のおける人物。信頼を損ねることになるので、いくら優秀だったとしても、そこの思い入れという点で全然違ってくると思う。(事務局)
- 本当に様々なことが起きる。それぞれ建物を管理している施設に関して、習熟している方がいるかいないかでは、使う側にとっても変わる、ということは管理の意見として上げてほしい。(委員長)
- ・ 先ほど5ページを説明いただいた時に、やはり演劇は中学生にとってはすごく良いと思う。少々内

容が重くても学生たちには届くと思う。想定集客人数の 200 人であるが、開催時期をたとえば夏休みあたりに持ってくると増やすことは可能ではないか。学期中の土曜日、日曜日で中学生と高校生の予定を合わせるというのが難しいので、来年度の 8 月の終わり頃というのは早すぎるか。それとも可能か。(委員 4)

- 先方との交渉になる。その中だったら子どもたちは非常に動きやすいし、教員の引率もやりやすいと思う。(事務局)
- 中高生に来ていただくことは、どこの施設でも苦勞しているので、貴重なご意見ありがたい。(委員長)
- ・ 見学ツアーについて、なかでやるのが良いかどうかというところがあるが、バックステージツアーのような裏側を体験できる形があり、図書館業務、文化ホールの業務など、こんな苦勞のなかで出来ているということを伝えていくツアーがあっても良いのではないかと。手間がかかり大変かもしれないが、1 回に 7、8 人規模であれば何かの機器に触って貰うなど出来るのではないかと。ボランティアではないが外に関心を持って関わってくれる人材を増やすことが出来ると、単に外側を見て「よかった」ではなく裏側も伝えられるメリットがあるのではないかと考えた。(委員 5)
- 私どもはバックステージツアーと呼んでいる。今の時代、バックステージツアーというのは開館後も毎年複数回やっている所が多いようである。以前、「照明はどうしてこんなに必要なのか」と聞かれたことがあった。実際小さい場所でも何十灯とあるが、これは学校の子供たちが舞台に上がった時に隅々まで皆の顔を照らすために必要になってくる。客席ではわからないが、裏を巡るとプロの方の一生懸命さがわかるし、このような機構が必要だと図書館側も含めてわかるので非常に大切なことだと思う。そして人気もあるようである。(委員長)
- ・ 避難訓練コンサートについてのアイデアだが、避難自体を例えば演劇にしまって、劇の中で避難をするというのはどうか。災害が来た時に具体的に動けるようにする。脚本を考えるのが大変かもしれないが、演劇をしながら避難の場に遭遇することで自分事にしやすいのではないかと。(委員 5)
- 避難訓練コンサートは意外に大変で、県警だろうが自衛隊だろうが演奏しているところで警報を鳴らしても、来場されている方は自分事だと思わずダラダラ逃げただけで誰も楽しめない。やり方を考えた方が良さそう。最初のうちはマスコミが来てくれたが、今はどこでも開催されているので珍しいものではない。他に楽しい例はないか。(委員長)
- あまりそこまで工夫している所はない。(委託業者 S)
- お客様は無料で見られるから来るのか、それとも動員か。結局は施設側のチェックが必要ではないか。(委員 1)
- 施設側が経験を積むために協力し合ってほしいという話。(委員長)
- ・ 話が違ってもいいかもしれないが、複数が入り乱れて使うようなスタイルもあるのではないかと。1 つの団体でやったら統制が取れてしまうが、複数の団体がやる小型版フェスティバルのお試しというものもあって良いのではないかと。避難訓練と関係なしにチェックする上で 1 つハードルを上げるということで、文化祭のようにホール等のなかで 2 団体 3 団体が一緒に使うのはどうか。(委員 1)
- その通り。文化祭に関して前の市民会館のさよならをしたとき、20 分置きに各団体が出てきて 1 日中使うということをやった。ある意味 1 番トラブルが起きる。リハーサルの時間をたくさん取った方が良さそう。ハードルが高いことなので、いきなりやるのは怖いと思う。(委員長)

- ・ いずれにしても、街中の中心部にこれを作るとなったときに最大の課題は双海や中山のお子さんたち大人の方たちにも来ていただく事。色々な手立てを考えて対応することが大切だと思う。施設によっては主催やコンサートなどで遠隔地にバスを 1 台だけ出す所もある。例えば中山のどこかのグラウンドの駐車場に停めて頂いて、乗り合いのバスに申し込みして頂き、帰りはその場までお送りする。運用の問題でそこまでお金をかけずに出来ることもあると思う。様々な用途でお金を使う場面があると思うので、上手く意思疎通を図っていただければと思う。(委員長)

(3) 広報宣伝計画について

- ・ 広報宣伝計画についての説明。資料③
- ・ 先ほどの事業もそうだが、皆さんに広報するツールとして、伊予市の広報、ホームページ、チラシ、パンフレット等で告知するといっていたが、その方法以外はなかなか考えつかない。その広報活動がどのくらい有効なのかが疑問である。色々な形で周知する際ホームページだったら見ている人が本当にいるのかどうか、伊予市広報紙でも必要な部分を少し見て他の部分を見ていなかったりする。全ての人に関心を持って貰い行動に移して欲しいと思っているが、なかなか有効性を実感しにくいと思っているので、使い方やアピールの良い方法はないか。(事務局)
- シアターワークショップから意見があるか。(委員長)
- 一番情報が集まるのは口コミ。いかに市民を巻き込むか。例えば、佐伯市のプロジェクト。先日のイベントも子供たちの参加を促した。そうすると家族全員で来るので、地道な広報宣伝ではあるが、一番有効なのは口コミだと思う。(委託業者)
- 市のフェイスブックを見てくれない理由は、情報がすでに決まっているから。驚くほど公共施設は「イイネ」が少ない。情報が更新されていたり、「イイネ」がついている所に人は集まる。それとも言ってしまうと口コミである。(委員長)
- やはり情報を更新していけるかということが重要。フェイスブックもあくまでツールなので、私も口コミが重要だと思う。
- 公式のフェイスブックもあるが、個人が発信するというのが口コミだと思う。従って、個人が発信しやすいようなイベント、これを撮影してハッシュタグを付けてくださいなど、発信したくなるような仕掛けがあった方が良く感じた。(委員 1)
- 仰る通りである。東京の美術館では飽きる程これをやっている。QR コードを読み込んでハッシュタグを付けてやっていた。口コミのツールが確実に変わっている。現在、新聞紙は 65 歳以上にしか訴求しないと統計が出されている。テレビも 60 代以降しか訴求しない。(委員長)
- ・ 利用案内では固いから、利用案内の取扱説明書を用意して皆の関心を持ってもらう等の取り組みもあった。私のフェイスブック友達が 2700 人位いるが、発信したら「イイネ」が多くて 200 件くらい。でも中身による。食いつきやすいものと「イイネ」が付きやすい傾向にある。堅苦しい会議などを書くと「イイネ」が少なかったりする。こういうような事を公式ホームページでやって良いのかと疑問が上がっていて、なので私は大学の公式のフェイスブックは使わず、自分で発信している。言葉や中身にもっと関心を持てるような話ができれば良いと思う。操作が簡単なので写真中心ならインスタグラムでやって、フェイスブックと連動させてやっていくというように作業を少しでも効率化していけると良い。(委員 5)

- 参考になるかわからないが、高松市では市役所職員全員がフェイスブックを持たされている。最初は情報漏洩の問題などが懸念されていたが、ガイドラインを作り現在大きな問題は起きていない。結局公式だと皆見ないので、職員全員がやるようにしようとして、効果の検証は出来ていないが、現在2年程続いている。ホームページをよく見て頂いている施設はフェイスブックと連動している。(委員長)
- 色んな人が発信することに意味があるのだと思う。(事務局)
- 先ほどの利用案内で固いという話だが、パンフレット自体は館内案内で全てが載っているものは作られないのか。利用案内は確かに様々な情報を盛り込まないといけないと思うが、図書館だけのパンフレットも必要になってくると思う。手に取った時に図書館を目的に来た方が他の目的を持って貰えるように、ペーパーでの広報ツールがあるのであれば新しい形を提案できるようにした方が良いのではないかとと思う。(委員1)
- 全体のパンフレットと取扱説明書のような利用案内のパンフレットを作りたいと思う。業者の方向けと舞台の取扱説明書もいると思う。図書館用のパンフレットで本棚の並びとかを詳しく説明したものもあった方が良いと思っている。現在はそのようなすみ分けである。(事務局)
- 本棚のすみ分けも重要であるが、検索の仕方を載せたらそこまで情報を載せなくて済むのではないかとと思う。どこまでの情報を載せたら良いかについては、簡単にして全部読まなくて済むように、どこを読んだらある程度周知できる、というような形にした方が良いと思う。何を発信したいのが精査されると良い。今は情報量が多いと読まないのも、何が必要か考えなければならない。(委員5)
- 新しい図書館のパンフレットを14、15くらい持って帰った時に本棚の並びの案内が入っているものは少なかった。もしかすると今仰ったような工夫をされているのかもしれない。(事務局)
- 一番効果的なのは口コミであると教えて頂いたが、これは両方必要なので、ホームページが必要ないという話ではない。広く伝えることと伝えたい人に確実に伝えるということのお話で、その後具体的な利用案内となる。来て頂いた方への対応として観客と利用者の二通りの案内が必要であること。図書館に関しては、詳しい取扱説明書が必要だが、まずは情報の精査が必要である。利用者にもっとコアな情報を伝えるということ。しかしこれらのことは大変なので、広報総務担当の者が1人必要だと思った。ここから先は、順番にやっていった方が良いと思う。詳しい内容の基本になる説明書を作り、それから広くお知らせ、舞台や図書館の利用者に確実に伝える。それぞれのご意見を生かしていくことが重要だと思う。それから複合館としての機能を生かすこと。ホールに来た人も図書館に行きたくなるようにする。少し前にやっていたが、文化交流センターの広報紙の発行に関してこれは私の意見であるが、広報紙は年に1回で良くて、かわら板的なものを1色刷りのチラシでも良いので誰かがイラストを描いて楽しいものを作るといいうように、お金をかけずにやれることもあると思った。先ほどの話のように情報が出ないと意味はないので、こまめに何かしらの形で情報を出すのが必要だと思う。もう広報紙が出て良い。(委員長)

(4)お試し事業について

- ・ お試し事業に関しての説明。資料③
- ・ 利用者に事前に書いて欲しい情報を伝えておくのと審査が楽に進めるのではないかと。お試し事業で使

いたい方は事前に相談日等を決めてもらう。そういったことをすれば、全体の流れがよりスムーズに進むのではないか。(委員5)

- 申し込みの前に1週間とか、または予約制でも良いということか。結果報告の再申し込みの検討というのは、再申し込みがあった際に毎回審査会を開かなくて良いのか。(委員長)
- 開かなくて良い。(事務局)
- 持ち回りで良いのであれば問題ない。ただ市の主催事業なので、審査会の前で出た意見が修正されて、主催者側でOKとなったのであれば良い。申し込み期間じゃない時期に申し込みしてくる場合もあるので申し込み期間を作るのかどうか。審査会はやらないと思うが審査会をやるのかどうか。審査会で出た意見がどのように反映されているか市役所の方でどうチェックするのかを検討する必要があるのではないかと思う。(委員長)
- 審査の中で条件付けをして、その条件がクリアされたら良いというようなやり方もある。(事務局)
- ・ 予算がある程度決まっていなくて、決めていくのが難しいのではないかと。予算は決まっているのか。(委員1)
- 予算は決まっていない。(事務局)
- 市の予算というのは基本的にこのお試し事業のときに、照明音響の技術員を配置するだけの予算か。(委員1)
- そうだ。お試し事業で何回分を予定しているからこの館の分の舞台員数、関係職員の委託を要求するということである。削られたら、お試し事業の回数を削らないといけないという話である。従って、予算によって回数は決まっていく。(事務局)
- 申し込みの段階では、採用数が決まっているということか。件数は予算が決まっていなくて、現状言えないということである。(委員長)
- お試し事業は、一応この計画に書いている、カレンダーにある回数くらいということか。予定しないと予算が決められないので、何回かというのは、だいたい土日を設定しているのか。(委員長)
- そう。20回くらい。更に打ち合わせ等も入っているので膨大な予算だと思う。(事務局)
- お試し事業もきちんと広報宣伝しないと、意外に申し込みが少なかったということもある。(委員長)
- お試し事業をやっていたところによると、やはり一般的な広報では集まらず、ダイレクトメールで一本釣りをしたということを聞いた。(事務局)
- 市内在住者という条件は意外と厳しい。その要件をクリアするだけで結構大変なので、利用して頂くということをきちんと広報宣伝して日にちがバッティングしないように、事前調整してもよいのではないかと。お試し事業をたくさん使って頂かないと今後の貸館もおぼつかない。(委員長)

(5) その他

- ・ 企画講座の報告。資料④
- ・ 11月23日に双海のボランティアの皆さんと双海の図書室を使ってイベントをした。その時に会費500円を取って20名の方に集まって頂きトートバッグ作りをした。その際この企画講座に参加された方が仰っていた事で、9月頃に案内をしていたため忘れてしまっていた方がいて、しかも11月23日は3連休だったこともあり、2、3人参加できなくなってしまった。イベント企画講座でトラブル対応についての講義があったが、本件のことがあって、自分の身にはじめて起きて、実感したと、イベント企画講座は非常に参考になったと仰って頂いた。イベント企画講座に参加頂いた方にもぜひ

お試し事業をして頂きたいと思っている。(事務局)

- 3回で出てきたイベントは実現が直ぐに出来そうなものであった。第3回では予算書もちゃんと出来ていた。非常に実現性の高い提案だと思った。ただ1点だけ気になる点があって、誰かにやってもらえるのだろうと勘違いされている方がいて、これは皆さんでやって貰うのだとお話させて頂いた。我が事のように考えて頂ければと思う。(委員長)
- 一番気になっているのは、お試し事業に書いてあった舞台技術者の目途は立っているのかということ。委託なので、委託会社にお問い合わせすれば来るような形なのか。(委員4)
- お見積もりを頂いている所にお声がけをしたいと思っている。市内の業者も気になっているようである。また話を聞いてみる。(事務局)
- ・ ピアノの件であるが、スタインウェイのフルコンサートグランドピアノを要求している。これだけのために2千万超えるので議会で議決を頂かないといけない。その後スタンウェイのピアノをプロの人が弾いて選定するという作業がある。要は今後演奏会をするピアニストが、選定して頂くピアニストと同じ人にしたい。金子三勇士さんに選定をお願いしたいと思っている。若手の有望株、今後伸びていく方、若い男性にお願いしたいと考えた。今後IYO夢みらい館を発展させていくために、昔から知っている方に来て頂くよりは、今後この方と一緒に成長したいという思いを込めてお願いしたい。よろしいか(事務局)
- ・ 異議なし。
- ・ これで第4回伊予市図書館管理運営アドバイザー会議を終了する。(委員長)

以上